

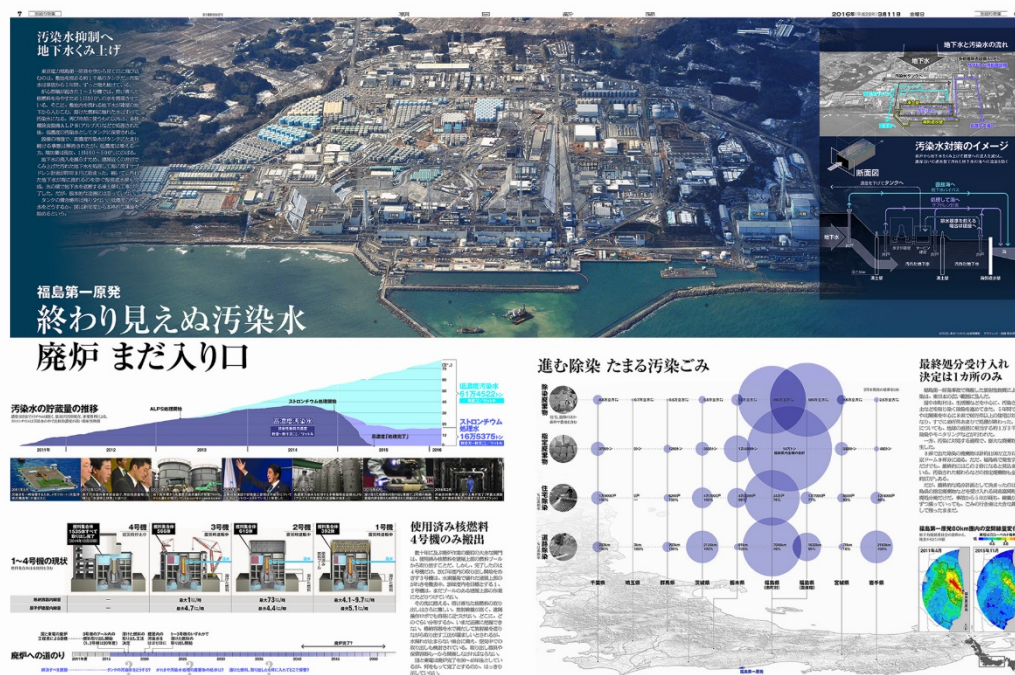
朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

〈報道関係のみなさま〉

優れたデザイン選ぶ「日本タイポグラフィ年鑑 2017」

朝日新聞別刷りのグラフィックスが部門最優秀賞に

文字を伝達手段とした優秀なデザイン作品を選ぶ「日本タイポグラフィ年鑑2017」の受賞作が発表され、株式会社朝日新聞社(代表取締役社長:渡辺雅隆)からは、2016年3月11日付朝刊の東日本大震災5年別刷り特集「福島第一原発 終わり見えぬ汚染水」(担当デザイナー・加藤啓太郎、アートディレクター・末房赤彦)が、インフォグラフィクス部門の最優秀賞「BEST WORK」に選ばれました。部門最優秀賞の受賞は5年ぶりです。



受賞作を手がけたデザイナーの加藤は「特集をデザインする直前、福島第一原発に足を運んで取材する機会がありました。そのときに肌で感じたのは汚染水や放射線量のような課題が現在進行形だということです。そうした現地の『いま』が直感的に伝わるビジュアルが評価され、うれしく思います。これからも報じるだけでなく、解決の糸口をつかめるようなグラフィックを意識していきたいです」と語っています。

>

contact

〈お問い合わせ〉

朝日新聞社 広報部

TEL 03-3545-0131(代表)



press release

朝日新聞

朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

「日本タイポグラフィ年鑑」は過去1年間に発表された優秀なデザイン作品を選定し収録したもので、デザイナーや研究者でつくるNPO法人日本タイポグラフィ協会が発行しています。今回は計1,185点の応募がありました。受賞者リストは、協会ホームページ<http://www.typography.or.jp/index.html>でご覧いただけます。また受賞・入選作は、来年4月発行予定の「日本タイポグラフィ年鑑2017」に収録されます。

このほか朝日新聞社からは計6点が入選しました。米大リーグ・イチロー選手の3千本安打記録を特集した朝日新聞デジタルの「#51=3000」(<http://www.asahi.com/special/ichiro/3000>)がオンラインスクリーン部門で選ばれました。またインフォグラフィクス部門2点、ロゴタイプ部門3点が入選しています。

新聞社のデザイン作品は、ニュースや話題をわかりやすく正確に伝えることが求められます。締め切りまでの限られた時間のなかで、デザイナーは取材記者と情報を共有してビジュアルにまとめます。今回の受賞作のようにデザイナーが現場を取材しその感覚を生かす場合もあります。朝日新聞社報道局デザイン部は「今回の受賞を糧とし、これからも報道の担い手として、多くの読者の方々に響くグラフィックを探求し、さらなる挑戦を続けていきます」としています。

朝日新聞社は11年から「日本タイポグラフィ年鑑」に応募しており、「日本タイポグラフィ年鑑2012」では全部門を通じた最優秀に当たるグランプリを「震災グラフィック」(デザイナー・寺島隆介)が受賞しました。一連の朝日新聞のデザイン作品について、審査委員長のグラフィックデザイナー工藤強勝さんからは高い評価をいただいています。

工藤強勝さんの話

もともとインフォグラフィックスの中でも速報性を優先とする新聞のニュースグラフィックは幅広い年齢層など多様なターゲットを見据えて、仕上げなければならないという厳しい条件があります。その状況で制作したものを朝日新聞は毎年応募してきており、コミュニケーションを重視しながらも非常に質が高く、密度が濃い、完成度のある仕事を発信していることを評価し、感心しています。

>

contact

〈お問い合わせ〉
朝日新聞社 広報部
TEL 03-3545-0131(代表)